

## 第 315 回ガスクロマトグラフィー研究会開催のご挨拶

2011 年 11 月 10 日

(社) 日本分析化学会 ガスクロマトグラフィー研究懇談会 委員長

(独) 産業技術総合研究所 前田恒昭

本日、関東地区以外での研究会開催の第一回目が、ここ大阪で開催される事になりましたので一言ご挨拶申し上げます。ガスクロマトグラフィー研究懇談会は 1958 年に設立以来、現在まで継続して活動を続けています。活動のピークは 1980-90 年代で、全国の研究者が活発に意見交換しておりました。この時期は、溶融シリカキャピラリーカラムを用いたガスクロマトグラフィーの発展、化学結合した固定相液相の開発、GC の検出器として質量分析計を直接結合した装置の普及などの時期にあたります。21 世紀に入り、GC も円熟期に入り、研究対象と言うよりは便利に使える道具として発展してきました。今では試料を調製してオートサンプラーのトレーにのせ、スタートボタンを押せばある程度の結果が出てくるまでになっています。しかし、便利な道具は正しく使う事が出発点で、原理を理解する事から新たな改良や発展が生まれてきます。よりよい結果を得て新たな展開を行っていく上で、GC に関わる方々の情報交換や意見交換等はとても重要な役割を果たします。

研究懇談会の活動目的は、ガスクロマトグラフィーに関連する学術と応用技術の進歩・普及をはかるため、技術紹介、情報交換、共同研究、見学会並びに相互親睦を行うことです。現在、ガスクロマトグラフィーの原理を理解し、正しく使っているか、結果を出すまでに装置の内部でどのような事が起こっているのかという理解を助けるために講習会を実施してきました。また、ガスクロマトグラフィーの原理を理解したり、日常使用している時に起こる疑問に答えるための出版も行っております。今年には日本工業規格のガスクロマトグラフィー通則の大幅改定が行われ、運営委員が多数改定に携わりました。このような活動を通じて、会員間の懇親を深め、情報交換や意見交換を行っております。

日本のガスクロマトグラフ及び関連メーカーの幾つかは関西を発祥の地として発展しております。運営委員一同、本研究会開催をきっかけとして、地域を越えた交流の機会が生まれ、研究会への参加を通じて、会員同士、将来会員となられる方々との交流の機会が増え、GC の発展に寄与する事を期待しております。

GC 懇会員には講演会・キャピラリーGC 講習会などへの会員特価での参加、研究会への無料参加など様々な特典があります。特に、各イベントの後の意見交換会は最新かつ有益な情報交換の場となっておりますので、この機会に是非会員としての登録、GC 懇へのご参加をご検討ください。